

第 2 3 回災害対策本部員会議での知事の主な発言

1. 会議冒頭の発言

- 1. 5 次避難所（いしかわ総合スポーツセンター・産業展示館 2 号館）については、本日 14 時時点で、累計で 672 人を受け入れており、そのうち 415 人を 2 次避難所等へ移送し、現在、257 人の受け入れとなっている。

2 次避難所については、一昨日の無料マッチングダイヤルの開設効果もあり、累計で 1,372 人を受け入れている。

孤立集落の避難者を丸ごと移送するミッションについても、新たに、輪島市の鵜巣地区の約 100 名が、野々市市内の施設に移送されることとなった。

引き続き、これらの 2 つの面から取り組みを加速してください。

- 先程、国土交通省と県が合同で発表したが、道路の復旧工事を進めた結果、明後日、木曜日の 18 日、7 時より、のと里山海道の「徳田大津 I C から横田 I C 間」、及び能越自動車道の、「のと三井 I C からのと里山空港 I C 間」で通行止めを解除する。

具体的には、徳田大津 I C から横田 I C 間については、能登方面のみ、緊急車両等に限って通行止めを解除する。のと三井 I C からのと里山 I C 間については、輪島から穴水方面のみ、通行止めを解除する。

しかしながら、奥能登に入る道路では、未だに渋滞が発生している。改めて、今はまだ、個人的なボランティアや不要不急の用事で能登に入ることは控えてください。

- 本日、文部科学省が発表したのが、被災した児童生徒の就学機会を確保するため、1,500台程度のタブレット端末とWi-Fiルーターを、学校や児童生徒に無償貸与いただけることとなった。

また、被災地の自治体によるスクールバスの運行などに活用できる国庫補助制度については、従来の小中学生に加え、今回、新たに高校生も対象となったことに、感謝申し上げます。

- このように、少しずつ復旧が進んでいるところである。

2. 会議最後の発言

- 被災地の避難所には、物資は行き届きつつあるものの、避難所によってバラつきがあるとの声を聞く。在宅で避難している方を含め、くまなく支援が行き届いているか確認し、被災者のニーズに寄り添ったきめ細かな支援を行ってください。

先ほど、防衛省から発言があった通り、米軍のヘリ「ブラックホーク」が、今日にも到着する予定とのことである。これは、防衛省の要請によるものであり、今後、このヘリは、小松空港と能登空港の間で物資輸送を行うと認識している。

自衛隊には、これまでも様々な支援をいただいている。今回、それらに加えて米軍も入って被災者を支援いただけ

ることに心から感謝申し上げます。

- 被災地でインフラの復旧業務にあたっている方々をはじめ、病院・福祉施設の職員の皆さんなど、被災者に支援を行っている方々が疲弊することのないよう、人的・物的支援をお願いしたい。

土木、医療、介護、それぞれの支援員が疲弊しては、末端までの支援が滞るので、支援者への支援を丁寧に行ってほしい。

- 昨日も申し上げたが、被災者に今後の見通しを持っていただくためには、道路・水道・電気・通信のインフラ4点セットの復旧見通しを地域ごとに示すことが重要である。国・県・関係機関・市町の関係者が連携して、作業を急いでください。そして、分かり次第、情報をあげてほしい。

水道とは、上下水道一体という考えをベースにしてほしい。

例えば、復旧に3カ月かかるなら、2次避難所に行かないといけない、とご理解いただくためにも、インフラ4点セットの見通しを分かりやすくお伝えし、判断していただけるようにしてほしい。

- 復興には、事業者の事業継続・再建、雇用の維持確保が課題である。早期に支援の方向性をお示しすることが重要であり、国・県・関係機関で被害状況の把握を急ぐとともに、検討を進めてください。
- 被災地から自主的に県内外に避難された方も多数いる。今後の行政からの支援に繋げていくためにも、ぜひ、石川県庁の相談窓口にご連絡いただきたい。免許証等の身分証

明書がお手元があれば、なおありがたい。

2次避難にあたって、ペットの避難に1日2千円かかるという情報を把握した。動物愛護を所管する健康福祉部と、2次避難所を所管する観光戦略推進部で、共同で対応にあたってほしい。必要に応じて、要望をあげてほしい。